



内なる記憶

校長 澤田 有子

長い夏休みを終えた子どもたちが、溢れるエネルギーを放ちながら、元気に登校してきました。学校が息を吹き返す瞬間です。そんな子どもたちに挨拶を返しながら目を合わせると、恥ずかしそうな瞳の奥に、それぞれの子どもの夏の記憶をほんの少しだけ感じとることができました。

そうか、なかなか楽しい夏休みだったのですね...それはよかったですね。そうか、ちょっぴり退屈しちゃったのですね...エネルギー充電期ですよ。そうか、勉強をずいぶん頑張ったのですね...きっと努力は報われますよ。等々

以前この欄に、「自分の思いを伝えることができる言葉を獲得するためには、『外にある言葉』を見つけていくことが有効ではないでしょうか。読書を進めていきましょう。」と書いたことがありました。それでは、何か新しいことを始めようとする時、何か新しいものを生み出そうとする時にアイデアのヒントとなるものは、いったいどこで見つけたらよいのでしょうか。

人間の記憶とは、新しい経験を脳内に保存し、後になってその経験を意識や行動の中に再生する一連の機能をさすそうです。そして、母親の胎内にいる時から、毎日新しい情報を取り入れて脳に蓄積し続けているそうです。長年にわたり五感を使って蓄積させた『内なる記憶』を再生し、組立てなおしたり、それをもとに変化させたりすることが、何かを創造していく時のヒントとなっていくのではないかと思います。もちろん、インスピレーションのような第六感から得たものも大切でしょう。

39日間の休みの中で、子どもたちは学校では得ることができない体験や経験をし、たくさんの記憶を蓄えたことと思います。その記憶は、「内なる確かな力」にきつとつながるに違いありません。

この夏、転入生が6名あり、荏田っ子は323名になりました。荏田小のパワーが上がります。



ガーデニングボランティアの方々が育ててくださっている中庭の草花。夏の暑さにも負けずに葉を広げ、素敵な花を咲かせています。先生たちがPTA工作教室で制作したベンチに座って、どうぞご観賞ください。

